

令和 6 年 度
(2024年度)

事 業 報 告 書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月 31日

特定非営利活動法人 HOKKAIDO しっぽの会

令和6年度事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
特定非営利活動法人 HOKKAIDO しっぽの会

事業の成果

当会の活動について

これまで当会の主軸であった行政機関に收容され、行き場を失った犬猫の引き取りについては、近年、收容数の減少とともに殺処分のリスクも軽減されました。振興局や保健所、役場などの自治体も譲渡に向けた取り組みを強化し、より多くの犬猫が新しい家族と出会える環境が整ってきています。一方で、多頭飼育崩壊、動物虐待・ネグレクト、ブリーダー崩壊といった問題が顕著化し、当会の活動も多岐にわたるようになりました。こうした状況に対応するため、これまで行政機関からの引き取りを中心としていた活動から、行き場を失い、リスクを抱えた犬猫の保護を最優先にする方針へと移行しました。また、多頭飼育崩壊やネグレクトのケースでは、行政機関や警察と情報を共有し、動物に関わる社会課題の解決に向けた啓発活動にも力を入れました。当会の理念である「人と動物が共生する幸せな社会」の実現に向けて、講習会やしつけ教室を開催し、行政会議への積極的な参加を通じて、社会全体での意識向上に努めました。さらに、北海道および日本国内における犬猫の現状を発信し、共生社会の形成に向けた啓発活動も行っています。

譲渡活動と地域環境の保全

新しい飼い主を探す譲渡活動では、譲渡前の家庭訪問を実施し、脱走防止策を徹底することで、安全で安心な譲渡を心がけています。また、ペットと共生するための地域環境の保全事業として、野良猫の不妊手術を行う方々への助成金を交付しました。「行政機関譲渡犬猫不妊手術助成金事業」は開始から8年目を迎え、行政機関から譲渡された犬猫の不妊手術費の一部を助成することで、望まれない繁殖を防ぎ、適正な飼育環境の整備に貢献しています。

動物福祉の啓発と持続可能な社会の構築に向けた取り組み

サステナブルな社会への貢献として、「ペットグッズのリサイクル市」を毎月開催し、資源の有効活用を促進しました。また、インターネットを活用した動物愛護・福祉の普及啓発にも注力し、YouTubeでの動画配信、FacebookやInstagram、X（旧Twitter）での情報発信を積極的に行っています。

ペットの預かり事業

その他の取り組みとして、飼い主がやむを得ず飼育できなくなったペットを有償で預かる事業を実施し、行き場のないペットの減少と共生社会の促進に寄与しています。

事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

1. 保護事業 犬猫の引き取りと譲渡活動について

当会では、行政機関をはじめ、行き場を失った犬猫の保護活動を行い、新しい飼い主を探す取り組みをしています。令和6年度は、犬22頭・猫44頭を引き取り、そのうち犬20頭・猫28頭を新しい家庭へ譲渡することができました。しかし、近年、腫瘍や免疫不全など深刻な健康問題を抱える犬猫の引き取りが増加しており、医療費の負担が大きな課題となっています。こうした状況の中でも、当会は高齢・病気・怪我などのハンデを持つ犬猫たちを分け隔てなく平等に受け入れ、可能な限りの医療とケアを行っています。施設で長く暮らす保護犬猫も多く、年齢や病気の影響で回復が難しいケースもあります。今年度は犬4頭・猫3頭が老衰や病気により亡くなりましたが、その多くが高齢の犬猫、または病状が末期の状態で行き取られた個体でした。

◆ 17年間の保護状況（2007年～2025年3月31日）

内訳	引取り数		譲渡数		引き取り後死亡数	
	犬	猫	犬	猫	犬	猫
2024年度	22	44	20	28	4	3
2023年度	25	25	23	26	6	10
2022年度	67	37	31	32	14	6
2021年度	19	25	25	36	3	7
2020年度	76	36	67	36	13	6
2019年度	57	50	50	27	6	8
2018年度	57	39	48	37	8	4
2017年度	56	41	49	33	13	5
2016年度	68	72	64	58	14	12
2015年度	132	66	133	73	27	9
2014年度	110	76	88	60	22	9
2013年度	118	46	97	36	14	4
2012年度	129	29	99	40	13	4
2011年度	112	67	87	43	6	2
2010年度	110	81	95	62	8	7
2009年度	122	47	102	61	2	4
2008年度	181	98	157	69	5	6
2007年度	126	54	129	31		
犬猫計	1,587	933	1,364	788	178	106
17年間計	2,520		2,152		284	

※それ以前のボランティア活動では、2005年には36頭、2006年には86頭譲渡しています。

健康管理について

当会では、保護した犬猫の健康を守るため、引き取り直後に動物病院で混合ワクチン接種、感染症検査、基本的な健康診断を実施し、健康状態の把握に努めています。これにより、病気の早期発見や予防を徹底し、保護した犬猫の健康に配慮しています。さらに、麻酔による健康上のリスクがない限り、すべての引き取り犬猫に避妊・去勢手術を行い、同時にマイクロチップを装着しています。犬には狂犬病予防接種を実施し、長沼町への畜犬登録も行っています。これらの措置により、病気の予防はもちろん、望まれない繁殖の防止、迷子や遺棄のリスク低減にも貢献しています。また、腫瘍や免疫疾患、腎臓病など重度の健康問題を抱えた犬猫に対しては、大学病院や専門病院で手術・治療を行い、最適な医療を行っています。しかしながら、昨年の過去最高額となってしまった医療費が課題となり、一頭でも多くの命を救う活動を継続させるため、2025年4月よりクラウドファンディングで支援を募ります。

飼育環境状況

当会では、保護した犬猫が快適に過ごせるよう、飼育環境の整備を行っていますが、施設の老朽化から生じる安心や安全等の問題に直面しています。2016年のクラウドファンディングで建設できた猫舎は暖かく過ごせるようになっていますが、それ以外の施設の老朽化は深刻です。譲渡できずにいる犬猫の多くは高齢となっていることもあり、健康・安全面でも施設の修繕が必要であることから、4月から実施するクラウドファンディングで施設の修繕の支援を募ります。

感染症対策では、定期的な消毒を徹底することで犬猫の健康を守るとともに、施設内への感染拡大を防止しています。特に保護時点で猫エイズ感染症を患っている猫が多く、収容猫の半数を占める状況ですので、適切な環境を整えることで健やかな日常を送れるよう努めています。

特別なケアが必要な犬猫への対応

高齢や介護が必要な犬猫については、預かりボランティアの方々の協力を得て、生活の質（QOL）の向上を図っています。個別のケアを行うことで、より安心できる環境で穏やかな時間を過ごせるようご協力いただいています。

犬のしつけ教室

プロの訓練士による指導を受け、適切な接し方や飼育方法を学び、犬への理解を深める場として貢献しています。しかし、咬傷犬として引き取った犬については、生まれ持った気質や成育環境の影響により、人との信頼関係を築くのに長い時間を要しているのが現状です。こうした犬たちに対しても、根気強く向き合いながら改善を目指しています。

足長基金事業 足長基金について

足長基金は、高齢や傷病などのハンデを抱え、健康な個体に比べてケアの手間や費用が多くかかるため、新たな出会いが難しい犬猫を支援する基金です。令和6年度には、新たに犬11頭・猫7頭が基金の対象となり、そのうち犬5頭・猫5頭が新しい家族のもとへと迎えられました。しかし、高齢化が進む中で、足長組として暮らす犬3頭・猫3頭が老衰や病気のために亡くなりました。年度末時点では、犬30頭・猫36頭、計66頭が足長基金の支援を受けながら暮らしており、すべての犬猫が温かい家庭に迎えられることを目標としています。FIV（猫エイズ）感染症陽性の猫や慢性腎不全を抱える猫の中には、毎日の点滴が必要なケースも多く、また下半身不随の猫には圧迫排泄の介助が必要です。そのため、介護に要する時間も長くなっていますが、限られたスタッフで対応しています。こうした犬猫に対しても、足長基金の皆様の支援により、病気や怪我で重症を負った犬猫の救済が可能となり、医療を施すことができています。今後も、ハンデを抱えた犬猫が適切な治療を受け、安心できる環境で暮らせるよう尽力してまいります。

終生預かり制度

家族の一員として大切に飼育され、一生を穏やかに終える犬猫がいる一方で、日本では毎年多くの犬猫が不要とされ殺処分されています。行政による終生飼養の推進や不妊手術の徹底など、適正飼育の指導が行われているものの、社会全体への浸透には課題が残り、犬の咬傷事故や多頭飼育崩壊など、飼い主の不適切な飼育が原因で放棄される犬猫は後を絶ちません。特に猫の多頭飼育崩壊は深刻化し、社会問題となっています。一方で、動物を愛しながらも、年齢やさまざまな事情により犬猫の飼い主になることが難しい方々も多くいます。そうした方々と、行き場を失った犬猫をつなぎ、穏やかで安定した生活を提供することを目的として、当会では令和2年末より「終生預かり制度」を開始しました。当会で預かっていたきたい犬猫は高齢やハンデがあるなど譲渡がなかなか叶わない犬猫たちですので、簡単なことではありませんが、ご理解があり飼育経験のある方が預かりしてくださり支えていただいています。令和7年3月末現在、6名の預かりボランティアの方々がこの制度に参加し、当会が保護する犬猫を家庭に迎え入れ、温かい環境で犬猫を支えています。現在、預かりボランティアの家庭で穏やかに暮らしている犬はブラッシュ、北斗、スモーキー、スカイ、ボス、猫はシロ、秋子です。それぞれが安心できる家庭環境のもとで継続的なケアを受けながら、穏やかな毎日を過ごしています。今後も、預かりボランティアの方の支援を受けながら活動を続けてまいります。

2.動物の保護・愛護・福祉の啓発事業

動物保護・愛護活動の啓発について

当会では、動物の保護・愛護・福祉の重要性を広く伝えるため、イベントの開催やインターネット、会報誌の発行に加え、テレビ・新聞・雑誌などのメディアを活用し、子どもや保護者を含む多くの方々へ生

命尊重の意識を啓発してきました。また、殺処分の廃止はもちろん、行き場を失う犬猫を減らすことを使命とし、社会全体の理解と協力を得るための啓発活動も積極的に展開しています。

野犬対策への取り組み

昨年 8 月には厚岸町役場で開催された野犬対策会議において、関係者とともに要望書を提出し、地域社会における適切な野犬対策の強化を求めました。さらに、今年 3 月には釧路総合振興局にて、市町村のイヌ・ネコ担当者会議で、野犬対策の具体的な方法や適正飼育・譲渡に関する講話を行いました。今後も、動物福祉の向上を目指し、啓発活動を継続してまいります。

3. ペットと共生するための地域環境の保全事業

動物の感染症対策と適正飼育の啓発

当会では、狂犬病をはじめとする人畜共通感染症の危険性を広く伝え、飼い主には正しい飼育方法やワクチン接種の重要性を啓発するとともに、一般市民へも保健衛生の重要性を伝える活動を行っています。令和 5 年度に続き令和 6 年度も、道東、道北、日高方面の市町村役場に、狂犬病予防と不妊手術の推進のリーフレットを 2 万枚を配布いたしました。また、野良猫と共生するための具体的な方法を発信し、飼い主のいない猫の保護や譲渡を推進するとともに、保護活動を行う方々の支援を継続しています。

「飼い主のいない猫基金」による支援と成果

「飼い主のいない猫基金」では、該当する活動グループへ野良猫の避妊・去勢手術費用の一部を助成し、飼い主のいない猫の問題に関する認知拡大に努めています。令和 6 年度は、312 頭の飼い主のいない猫に不妊手術助成金を交付しました。飼い主のいない猫の増加を防ぐための施策として、大きな成果を挙げることができました。一方で、助成金を確保するための「飼い主のいない猫基金」への寄付の増加は、常に課題となっています。そのため、支援の継続を図るとともに、さらなる周知活動を強化してまいります。また、不妊手術を受けた猫たちの保護猫譲渡会は、宮の森のしっぽの会オフィスや札幌市動物愛護管理センター、その他の会場で毎月開催しましたが、まだまだ十分とはいえません。今後も会場探しや集客などの課題があります。

多頭飼育崩壊への対応と地域支援

多頭飼育崩壊の案件では、長沼町の施設および栗山町の民家から計 34 頭の猫を引き取りました。中には人慣れしていない成猫もいましたが、全ての個体に不妊手術を施し、今後の繁殖を防ぐため注意深く管理を続けています。また、長沼町のふるさと納税への還元事業として、長沼町民のペットに対して、19 頭の猫の不妊手術を助成しました。こうした地域との連携を深めながら、今後も適正飼育の推進と飼い

主のいない猫の支援に取り組んでまいります。

4. 犬猫の避妊・去勢の普及推進事業について

当会では、保護した犬猫に対し、麻酔等の健康上の問題がない限り不妊手術を実施した上で譲渡を行っています。旭川市動物愛護センターや札幌市動物愛護管理センター以外にも、昨年からは、北海道立動物愛護センターをはじめ、道東・道北・道南でサテライトの動物愛護センターの運用が開始されたので、不妊手術の実施が進んできました。行き場を失う不幸な犬猫を減らしていくためには、不妊手術を施してから譲渡することが重要です。

「行政機関譲渡犬猫不妊手術助成金事業」の成果

令和元年7月より、保健所や行政機関で犬猫を譲り受けた飼い主に対し、不妊手術費用の一部を助成する制度「行政機関譲渡犬猫不妊手術助成金事業」を開始しました。令和6年度には、犬41頭・猫75頭（不明1頭）の計117頭が申請対象となり、これまでに合計904頭の譲渡犬猫に対して不妊手術費の一部を助成しました。本来であれば、行政機関で不妊手術を実施した上で譲渡することが出来れば、確実に行き場を失う犬や猫を減らすことが出来るようになります。多頭飼育崩壊対策としても北海道の行政機関で助成金制度の仕組みが広がっていくことを願っています。

助成金の実績と今後の課題

令和6年度の助成事業では、「飼い主のいない猫基金」により312頭、「行政機関譲渡犬猫不妊手術助成金事業」により117頭、「行政支援事業」により長沼町民のペット19頭、計448頭に不妊手術の助成を行いました。総助成額は4,321,330円となりました。ですが、助成金の確保と継続的な支援は常に課題となっており、今後も適正飼育の推進と不妊手術の徹底を図りながら、行き場を失う犬猫を減らすための取り組みを強化すると同時に資金の調達も重要な課題です。

5. 動物福祉・愛護・トレーニングに係わる講習会開催事業

犬のしつけ教室の開催とその意義

冬期間を除き、毎月ドッグトレーナーを招いて計11回のしつけ教室を開催し、愛犬と飼い主がプロの訓練士の指導のもと、問題解決の方法や適切な飼育方法を学びました。卒業した子犬を含め延べ55頭が参加しました。教室の講義内容はブログなどで紹介し、しつけトレーニングの重要性を広く伝えています。トレーニングを行うことで、飼い主との関係が深まるだけでなく、犬の精神状態が安定し、ストレス軽減にもつながります。こうした取り組みを通じて、犬の福祉向上に貢献できるよう努めています。

2.事業実施に関わる事項

その他の事業

ペットの預かりと譲渡事業

少子高齢化や人口減少の進行に伴い、核家族化が進み、飼い主の事情によりペットを終生飼養できなくなるケースが増えています。当会にも、こうした相談が多く寄せられることから、飼育継続が困難になったペットを有償で引き取り、新しい飼い主を探す事業を実施しています。また、卒業した犬猫を中心に何かの際に安心して預けていただけるようペットホテル事業も行っています。社会的な背景を踏まえると、こうした支援の需要はさらに高まることが予測されますが、当会では行政機関に収容されている犬猫、多頭飼育崩壊の現場からの救済、行き場を失っている野犬や野良猫など、より緊急性の高い命の保護を最優先にし、事業のバランスを取るよう努めています。今後も、動物福祉の向上とペットの適正飼育支援に取り組み、すべての犬猫が安全に暮らせる社会の実現を目指してまいります。

グッズ販売の収益事業

グッズ販売の収益事業では、新しいオリジナルグッズを充実させました。保護活動の運営や動物愛護や福祉の啓発活動としての役割も果たしました。グッズ販売を通じて、社会に向けた動物福祉のメッセージを発信し、より多くの人に適正飼育や動物福祉の重要性を伝えました。

持続可能な社会創りへの貢献

当会として取り組めるエシカルな活動を推進し、ペットグッズのリサイクル市を開催することで、持続可能な社会づくりに貢献しました。不要になったペット用品を再活用することで、資源の循環を促し環境負荷を軽減するとともに、必要としている飼い主へ提供しました。リサイクル活動を通じて、動物福祉と環境保全の両面に配慮し、ペットとの共生をより良い形で実現しました。また、得られた収益は保護動物の医療費等に活用しました。

令和6年度 毎月の活動報告

4月

- ・ あいまるさっぽろ&動物保護4団体合同譲渡会参加
- ・ 長沼猫舎見学自由なオープンデイ&割引セール開催
- ・ 長沼町某施設多頭野良猫案件に着手
- ・ 道央臨床衛生検査技師会学術集会で副代表特別講演
- ・ 「令和6年能登半島地震動物対策本部」に支援金振込
- ・ 会報春号第66号発行
- ・ 宮の森しっぽ会オフィス「保護猫と出会う会」とリサイクル市開催
- ・ 第1回犬のしつけ教室開催
- ・ 北海道獣医師会主催狂犬病予防注射啓発イベント参加

5月

- ・ 「令和6年能登半島地震動物対策本部」に支援金振込
- ・ 第2回犬のしつけ教室開催
- ・ 札幌市動物愛護管理センターで「人や社会に慣れていない=保護犬との暮らし方」講習会
- ・ 長沼猫舎見学自由なオープンデイ&割引セール開催
- ・ 宮の森しっぽ会オフィス「保護猫と出会う会」とリサイクル市開催
- ・ 第3回犬のしつけ教室開催

6月

- ・ 長沼郵便局でグッズ無人販売開始
- ・ 長沼猫舎見学自由なオープンデイ&割引セール開催
- ・ 第4回犬のしつけ教室開催
- ・ 道北天塩町多頭飼育現場視察
- ・ 地下歩行空間いこいの空間「私たちにできること 2024Summer」で卒業わんにゃんフォトコンテスト2日間開催
- ・ 宮の森しっぽ会オフィス「保護猫と出会う会」とリサイクル市開催
- ・ 第14回NPO通常総会開催
- ・ 札幌中島公園「第28回北の都札幌 ツーデーウオーク 札幌を歩こう」でバックウォーク開催
- ・ 牛小屋アイス「モ〜フェス20th」イベント参加
- ・ 第5回犬のしつけ教室開催

7月

- ・ 酪農学園大学学園祭「白樺祭」に参加
- ・ 長沼猫舎見学自由なオープンデイ&割引セール開催
- ・ 「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」贈呈式に参加

- ・札幌市民交流プラザ「フェアトレードフェスタ in さっぽろ 2024」に参加
- ・第 6 回犬のしつけ教室開催
- ・宮の森しっぽ会オフィス「保護猫と出会う会」とリサイクル市開催
- ・会報夏号第 67 号発行

8月

- ・長沼猫舎見学自由なオープンデイ & 割引セール開催
- ・あいまるさっぽろ & しっぽの会合同譲渡会
- ・宮の森しっぽ会オフィス「保護猫と出会う会」とリサイクル市開催
- ・厚岸町役場に野犬対策要望書提出と厚岸町と浜中町の野犬視察
- ・しっぽの会スタッフのつぶやき Instagram 運用開始

9月

- ・長沼猫舎見学自由なオープンデイ & 割引セール開催
- ・(公社) アニマルドネーションに「北海道全域の犬猫のために！イベントや多頭飼育崩壊のレスキューに奮闘」記事掲載
- ・～しっぽの仲間たち集合～第 5 回しっぽの会卒業わん同窓会 2 日間開催
- ・2024 動物愛護フェスティバル in えべつ参加と講演会開催
- ・2025 チャリティアニマルカレンダー 2 種発売
- ・宮の森しっぽ会オフィス「保護猫と出会う会」とリサイクル市開催
- ・第 7 回犬のしつけ教室開催

10月

- ・釧路市総合振興局主催「人や社会に慣れていない＝保護犬との暮らし方」講習会
- ・ドキュメンタリー映画「吾輩は保護犬である」で代表登壇
- ・厚岸町役場で開催 釧路総合振興局主催「令和 6 年厚岸町・浜中町野犬対策会議」参加と厚岸町・浜中町・別海町の野犬視察
- ・長沼猫舎見学自由なオープンデイ & 割引セール開催
- ・アクセスサッポロで「北海道ワンヘルスフェア 2024」に参加
- ・栗山町多頭野良猫現場着手
- ・北海道エコ・動物自然専門学校で当会活動紹介とブレインストーミング
- ・宮の森しっぽ会オフィス「保護猫と出会う会」とリサイクル市開催
- ・会報秋号第 68 号発行
- ・第 8 回犬のしつけ教室開催
- ・国際交流イベント「ワールドフェスティバル 2024in 石狩」参加

11月

- ・南幌郵便局でグッズ無人販売開始

- ・札幌市動物愛護管理センター 4 団体+あいまるさっぽろ 北海道最大級猫譲渡会参加
- ・しっぽの会猫舎面会自由な見学会&グッズ割引セール
- ・第 9 回犬のしつけ教室開催
- ・宮の森しっぽの会オフィスで「保護猫と出あう会」とリサイクル市開催
- ・3 市同ジャズクラブ交流イベント「ルート 36 ジャズフェスティバル」参加
- ・第 10 回犬のしつけ教室開催

12月

- ・札幌西郵便局でグッズ無人販売開始
- ・しっぽの会猫舎面会自由な見学会&グッズ割引セール
- ・宮の森しっぽの会オフィスで「保護猫と出あう会」とリサイクル市開催
- ・地下歩行いこいの空間「私たちにできること 2024Winter」2 日間開催

1月

- ・しっぽの会猫舎面会自由な見学会&グッズ割引セール
- ・宮の森しっぽの会オフィスで「保護猫と出あう会」とリサイクル市開催
- ・2024 年の寄付金控除の領収証を発送
- ・会報冬号第 69 号発行

2月

- ・しっぽの会猫舎面会自由な見学会&グッズ割引セール
- ・宮の森しっぽの会オフィスで「保護猫と出あう会」とリサイクル市開催

3月

- ・しっぽの会猫舎面会自由な見学会&グッズ割引セール
- ・宮の森しっぽの会オフィスで「保護猫と出あう会」とリサイクル市開催
- ・釧路市総合振興局管内の市町村役場イヌネコ担当者研修会で代表とスタッフが講師
- ・札幌市動物愛護推進協議会会議にスタッフ出席
- ・宮の森しっぽの会オフィスで「保護猫と出あう会」とリサイクル市開催
- ・北海道動物愛護センターあいにきた会議に代表参加
- ・第 11 回犬のしつけ教室開催
- ・「令和 6 年能登半島地震動物対策本部」に最終支援金振込
- ・4 月 1 日開始のクラウドファンディング告知開始 2025 年 5 月 30 日(金)迄

会報誌 年4回 1月・4月・7月・10月発行

足長通信 毎月末発行

正会員数 179名

サポート会員数 159名

ジュニア会員 1名

足長会員 300名